

生産者と市場関係者が意見交換 花き部会全体学習会開催

当JA花き部会は1月22日、鶴岡市の湯野浜温泉游水亭いさごやで「平成30年度JA庄内みどり花き部会全体学習会」を開きました。部会員と株式会社オーケネット・アグリビジネスの尾崎進社長をはじめ、市場や県酒田農業普及課、JA全農山形などの関係者約34人が参加しました。学習会は部会員と東京都、山梨県、沖縄県から参加した市場関係者による意見交換会の形式で行いました。今回初参加の沖縄県の市場関係者は、市場の状況や消費傾向、気候について説明。輸送時間が長く、気温が高いため、「他産地の花は着荷



▲沖縄県の状況説明に参加者は真剣に聞き入りました

時には花が開いてしまっている場合もある。同部会のものはそうしたことがなく高い評価をしている。赤やピンク系の花の人氣が高い」と報告しました。山梨県の市場関係者は「消費者は情報を求めている。購入後の管理方法やつぼみで買った花をきれいに咲かせる方法など、知識を提供できれば売上げ増につながる」と話していました。参加した部会員は「売り手側が一体となり情報を共有することが重要。お互いに疑問や要望を直接話し合える貴重な機会。参加して良かった」と話していました。



▲活発な意見交換が行われました

本楯無人ヘリ発足20年を祝い 祝賀会と講演会を開催



▲設立当時を振り返りあいさつする伊藤会長

本楯無人ヘリ運営協議会は12月8日、酒田市本楯の大物忌神社で発足20年を記念して講演会と祝賀会を開きました。阿部茂昭組合長やヤンマーヘリ&アグリ株式会社おきたまはるの長田真陽代表取締役社長、ヤマハ発動機株の各務龍一氏、同協議会の歴代会長、本楯無人ヘリコプターのオペレーター組織「エアロワークス酒田」の歴代メンバーなど約70人が参加しました。



▲祝辞を述べる阿部組合長

主催者の同協議会伊藤千春会長は「皆さんのおかげで20年の節目を迎えることができた。設立当時、無人ヘリの組織はどこにもなく運営をどうするか議論を重ね、運営協議会とオペレーター組織からなる2階建てにすることにたどりついた。以来、他地区にも普及し防除体制が確立した」とあいさつ。来賓の長田社長は「20年前、生産組合長だった今井欽哉さんの自宅を訪ね、無人ヘリ一斉防除の提案をしたことがきっかけ。導入初年度には場で近所の奥さんから『防除作業が大変だったけど、これからは無人ヘリ運営協議会やJAに頼めば全部やってくれるのね』と言われたことが今でも記憶に残り、仕事にやりがいを感じたありがたい言葉だった」と当時を振り返りました。